

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業
IgG4 関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究

分担研究報告書（平成 30 年度）

自己免疫性膵炎の診療における新規自己抗体測定の有用性

研究分担者 京都大学大学院医学研究科 消化器内科学 教授 妹尾 浩
研究分担者 神戸大学大学院医学研究科 消化器内科学 教授 児玉裕三

研究要旨：自己免疫性膵炎の診断において、血清 IgG4 高値は必ずしも疾患特異的ではない。本研究は、我々の発見した自己免疫性膵炎の新規自己抗体の ELISA 測定計を開発し、臨床的有用性について検討することを目指すものである。

A．研究目的

我々が発見した自己免疫性膵炎の新規自己抗体を測定するELISAキットを開発し、臨床応用を目指す。

きていない。

B．研究方法

ラミニン511のエピトープ同定、および新たな自己抗原同定により、汎用性のあるELISAキットの開発する。

（倫理面への配慮）

京大内の倫理委員会の承認を得た上で行なっている。

D．考察

臨床応用を目指すうえで、さらに精度の向上、新規自己抗体の同定を進める必要がある。

E．結論

自己免疫性膵炎の診断において、抗ラミニン511自己抗体測定が一定の有用性を持つことが示されたが、さらなる改良が望まれる。

C．研究結果

自己免疫性膵炎の自己抗原ラミニン511を同定し、それに対する自己抗体測定系を樹立した。更に、ラミニン511に関連した新たな自己抗原を同定した。しかし、いまだ4割ほどの患者では抗原が不明であり、さらなる自己抗原の探索を行い、同時にこれらを用いた診断キットの開発を進めている。また、特異度の上昇のためエピトープ同定も進めている。現時点では、自己免疫性膵炎の診断に使用されている血清IgG4と比較し、精度の優位性を示すことはで

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

1．論文発表

Shiokawa M, Kodama Y, Sekiguchi K, Kuwada T, Tomono T, Kuriyama K, Yamazaki H, Morita T, Marui S, Sogabe Y, Kakiuchi N, Matsumori T, Mima A, Nishikawa Y, Ueda T, Tsuda M, Yamauchi Y, Sakuma Y, Maruno T, Uza N, Tsuruyama T, Mimori T, Seno H, Chiba T. Laminin 511 is a target antigen in autoimmune pancreatitis. *Sci Transl Med.* 2018, 10 (453).

2. 学会発表

(1) 塩川雅広、児玉裕三、妹尾浩、千葉勉「傍腫瘍症候群としての自己免疫性膵炎発症メカニズムの検討」JDDW2018、神戸、2018年11月

(2) 塩川雅広、児玉裕三、妹尾浩、千葉勉、招待講演「自己免疫性膵炎の自己抗原同定に関する研究」第27回日本シェーグレン症候群学会学術集会、小倉、2018 9月

(3) 塩川雅広、児玉裕三、妹尾浩、千葉勉「自己免疫性膵炎の自己抗原同定に関する研究 第104回日本消化器病学会総会、東京、2018年4月

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし